

# 地域で農漁業体験を発表 広島大1年

地域への関心を高めるために県内の中山間地域や島々を訪れた広島大(東広島市)生物生産学部の1年生が16日、現地での体験や感じたことを同期生の前で発表した。学生を受け入れた地域住民6人も参加し、今後の学びへの期待を伝えた。

約10人ずつの10班に分かれ、6月に呉市や大崎上島、安芸太田町などをそれぞれ訪問した。うち5班が現地で聞いた高齢化の現状や農漁業を手伝った自らの体験を通じて考えた、地元産品のPR法

や訪問者を増やす方策などを写真を交えて報告した。

安芸太田町職員の長尾航治主査(43)は「人口減少の背景など一歩

踏み込んで勉強してみたい」。市民団体「大崎上島町食文化海藻塾」

塾長の道林清隆さん(64)は「今後もみなさんの知識や情報を提供

してほしい」とエールを送った。

同学部では新入生全104人がこの地域実習に参加した。残りの学生は23日に発表する。(新本恭子)

地域で学んだことを発表する学生

